

中学校区におけるめざす子ども像  
自らの課題に気づき、学び続ける子

### 令和8年度 重点目標

- ① 自ら学びを進める子ども育成 ～そのために必要な、授業改善、心身の健康、環境づくり、人権教育とは～
- ② 達成感を味わい、自分を高める子どもの育成 ～目標に向かって努力し、自らを高める教育活動の創造～

### 「確かな学び」の現状

令和7年学習状況調査は、算数・国語・理科とも大阪府・全国平均を下回っている。堺市学力状況調査では「知識・技能」の正答率が比較的良好であるものの、「思考・判断・表現力」の正答率が低い。児童の学習に対する意識を高めることはできているが、それが学習内容について深く考えたり判断したり表現する力の育成につながっていないと考えられる。

### 「豊かな心・健やかな体」の現状

本校児童は昨年度同様、男女ともに体力・筋力は全国平均を上回るが、瞬発力や柔軟性に課題が見られる。また、運動が好きだと感じている児童の割合は全国平均を下回るが、1週間あたりの運動量は多い。このことから、運動はしているが、自ら進んで楽しいと感じて運動している児童は限られていると言える。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力の向上 授業改善	単元全体を通して「学びのコンパスの探究のプロセス」を意識した授業づくりを継続して進めていく。一つ一つの授業において、子どもたちが「こんなことが分かった」「分かるから楽しい」「もっと学びたい」と実感できる場面を着実に積み重ねていくことで、学ぶ力を確実に伸ばしていける授業づくりをめざす。	○児童用タブレットの効果的な活用 学習での活用法を研究し、研修等を実施しながら効果的に実践をめざす。	・タブレットの活用内容と新しい使い方の開発 ・タブレット使用法の交流回数	学級、学年での交流とチェック	11月と2月			
			○子ども自ら学ぶ機会の設定 自主学習や総合的な学習などの中で子ども自身が、学ぶ内容や順番を決め、学び方や表現方法を選択できる機会を設定することで、主体的に学ぶ子どもの育成をめざす。	・交流方法の研究と実施頻度	校内研修を中心とした交流とチェック	適宜			
			●自ら学びを進める子どもの育成 “自ら学びを進める”とは何か、どのような姿が“自ら学びを進める”姿なのか、“自ら学びを進める”ために必要なことは何なのか等にこだわって授業研究や生活指導に取り組んでもらいたい。全職員の公開授業を実施し、授業力向上をめざす。	・探究的に学ぶプロセスの図をもとに具体的な子どもの姿から判断する ・ノート、ワークシート、発表などの記述 ・全職員の個人テーマの設定	授業での観察 討議会でのふりかえり	11月と2月			
豊かな心 健やかな体	自尊感情の育成	子どものよさを引き出す学習を構成し、自己肯定感を育成するとともに、他者理解を行い、いじめのない信頼される人間関係づくりを構築する。	○挨拶指導の徹底 本校児童のよさとして自分から挨拶をする児童が多い。これは家庭・地域の協力におもところも大きい。学校では引き続き、教師から積極的に児童に挨拶していくことを意識させる。挨拶の大切さを挨拶運動やクラスでも指導をしていく。	・あいさつの大切さについての指導の取組の充実 ・児童会等による新しい発想の取組とその回数	委員会活動の実施状況 学級での実態調査 アンケート	11月と2月			
			●居心地の良い集団作り 誰一人として阻害されることのない芯のすわった集団作りを行う。自分の考えを聞いてくれるという安心感を土台として、自己存在感を感じられるような集団作りをめざす。	・いじめアンケートの実施により、継続的な支援を行う。 ・協働的な学びの一要素として集団作りも位置づけて積極的に推進する。	いじめアンケートによる点検と交流 協働的な集団作りの実施回数	いじめアンケートとともに毎学期実施 (年3回)			
	体力向上	身体を動かすことが好きになるとともに、これからの時代を生き抜く体力を養う。	○生涯にわたる心身の健康・増進のため身体を動かすことが好きになる取組の推進 体育の授業でもわかる・できる授業の展開や体力づくりをより積極的に取り組む。	・なわとび、サーキット、運動領域別トレーニングの継続的实施	がんばりカード 振り返りカード 学校アンケート	11月と2月			
教育環境整備	学習環境づくり	一人ひとりが自らを伸ばすことができるよう、落ち着いた教育環境を確保する。	○清掃指導の徹底 清掃指導の充実と徹底をねらいとして、掃除と昼休みの時間を変更した。掃除のやり方を指導した上で、静謐な学習環境につながる基盤をつくる。	・役割分担等の明確度合と徹底度 ・清掃について、子どものふりかえりで充実度の分析	子どもの振り返り 委員会活動	11月と2月			
人権教育の推進	自尊感情の醸成 他者理解と	さまざまな人権の取り組みをもとに人権教育を推進する。	●自尊感情の醸成につながる人権教育の推進 障害や特性を持つ子どもだけでなく、一人ひとりの自尊感情を育てる教育を継続して取り組む。	・実施教材数や確保した実施時間数 ・子どもの感想などによる変容	学校全体や各学年での振り返り	毎学期の計画と検証 及び 11月と2月			

校長より (年度末)

学校関係者評価者から (年度末)